

おいしー(OEC) 2005.11 NPO法人 おきなわ環境クラブ

ニュースレター No.7



常夏の島沖縄にもやっと秋らしい涼しい風が吹くようになってきましたが、皆さんいかがお過ごしですか？今年には地球温暖化が原因と思われる天災が続きますね。しかも被災地の中には京都議定書に参加していない大国もありますね・・・これを機に地球温暖化についての認識を深めて欲しいと願うばかりです。

さて今月は那覇市(11/6)沖縄県(11/26,27)の『環境フェア』が開催されます。当クラブも参加しますので、皆さんお誘いあわせのうえ遊びにいらして下さいね！お待ちしております。

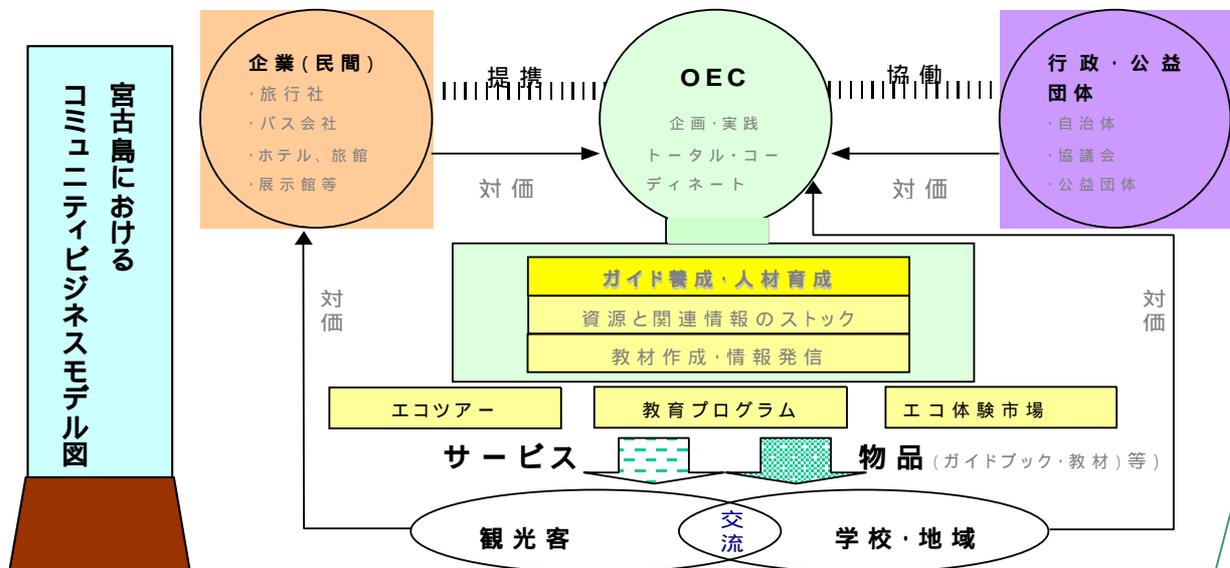
OECがめざす企業や行政との協働

今、NPOと官(行政)、民間(企業)など、三つのセクタ(部門)でお互いの協働が叫ばれている。一口に協働といっても様々な形がある。公的なセクタとの協働として国や県、市町村、JICA、学校などからの委託事業をはじめ、講師派遣、協力や共催、それらが主催するイベントへの参加などがある。今年度OECでは、県の地域環境センター管理業務や生活排水対策普及啓発モデル事業、JICA 沖縄の集団コースや個別の研修事業、研修員福利厚生事業など、それらの多くが委託事業である。民間セクタとの協働は、県内の旅行社と提携したエコツーリズム事業が主で、県外旅行社などの依頼を受けてガイドや講師の派遣がある。

OECがNPOとして持続的に事業(活動)を展開していくためには、民間と公的(行政)、両セクタに対して委託や共催、協力の関係からもう一步踏み出した積極的な提携の形が求められている。

公的セクタとの例として、去る9/17修了した宮古エコツアーガイド養成研修では、OECと宮古広域圏事務組合(地下水協)、受講生の三者それぞれが等分の経費を負担するとともに、研修事務や教室、機材の提供、カリキュラム作成と講師の手配、講師を務めるなど、一連の研修業務を分担した。今後、公的セクタとの協働は、行政とNPO、受益者の三者が経費を応分に負担した上で、事業に係る業務(しごと)を分担していく形が多くなると予想している。

民間セクタとの例としては、県内旅行社と提携しているエコツーリズム事業以外は、本業とは別の社会貢献事業(活動)との関わりが多い。民間セクタについても企業とNPO、受益者の三者で経費を応分に負担して、企業は収益に結びつく事業戦略の一環として、NPOはミッションに基づく活動(事業)として、それぞれが業務を提携・展開していくことが、今後の企業との協働のあり方とOECは考えている。



平成 17 年度 7 月～10 月の活動状況

活動名	内容	年月日	場所	人数	備考
おきなわパリントニア・フェスティバル 2005	パリントニア(サガリバナ)のライトアップとエコツアーガイドによる解説	05-07-11 ～ 05-07-18	県庁中庭、国場地区	500	地球環境基金助成
第 8 回 My キーフジ作戦	漫湖南岸にキーフジ(サガリバナ)を植樹	05-08-06	漫湖公園南岸	10	地球環境基金助成
宮古エコガイド養成研修修了	宮古の自然環境を学んだ宮古エコツアーガイド研修 20 名が修了	05-09-17	宮古島市	20	宮古地下水協委託
JICA 福利厚生事業	沖縄国際センターに滞在する研修員の社会見学やエコツアーなど	05-07/23 05-08/21 05-09/17 05-10/10 05-10/22	壺屋やちむん通り 大度海岸 末吉公園と瑞穂酒造 美ら海水族館 斎場御嶽・識名園	165	JICA 沖縄委託
沖縄の自然と環境	1 年生の総合学習の時間に沖縄の自然環境や校内の環境について学習	05-09 月 ～12 月	那覇市立鏡原中学校	25	自主事業・環境教育
第 2 回 OEC 博物館ワークショップ	宮古産ヒルギダマシの植樹とマングローブの観察	05-10-16	川満ウプカー マングローブ	32	地球環境基金助成
環境 NGO と市民の集い	地球環境基金の助成団体による中間発表会と環境 NGO と企業の連携、協働のあり方を考える。吉田研究員発表。	05-10-23	福岡県北九州市		地球環境基金助成
漫湖のマングローブと水鳥	東京都の東京大学附属中学校の修学旅行生に漫湖周辺のマングローブや水鳥、湿地の環境についてガイド	05-10-25	漫湖水鳥・湿地センター	8	自主事業・環境教育
生活排水対策普及啓発モデル事業	市町村が育成する生活排水対策指導員の育成の実施とマニュアル作成	05-10 月～ 06-03 月	宇地泊・牧港川流域	20	沖縄県文化環境部 環境保全課委託

宮古で第 2 回 OEC・博物館ワークショップを開催

10 月 16 日(日)、地球環境基金の助成を受けて川満ウプカーマングローブにおいて、第二回 O E C 博物館ワークショップが開催され、2 名の宮古エコツアーガイドがデビューした。

当日は希少種である宮古島産ヒルギダマシ 63 本を総勢 30 名の参加者で移植(植樹)し、その後マングローブ木道から宮古エコツアーガイドの解説でマングローブを観察した。参加者たちは植樹を楽しみながら宮古の自然について理解を深めていたようだ。初デビューを終えた宮古エコツアーガイドらは、今後もより深く宮古の自然環境について学び、更なる活躍の場を広げていく意欲を見せた。

地域環境センタービデオ上映会

夏休みも終わりに近づいた 8 月 26 日、沖縄県地域環境センター主催で小学生を対象とした地球温暖化防止に関するビデオ上映会が開催された。当センターは文化環境部の委託を受け、当クラブが管理している。当日は、環境問題に関心のある親子 15 名が参加。センターの案内とあいさつに始まり、続いてアニメ『地球が熱を出している』を上映。画面に見入る子供たちのまなざしはまさに真剣そのもの！

質問タイムでは子供たちから様々な疑問・質問が飛び出し、子供たちの環境に対する意識の高さを感じることができた。

今後地球の未来を担う子供達に灯った”エコマインド”が”アクション”に繋がる事を願う。

JICA 個別研修が修了

9 月 14 日から 10 月 19 日の約一ヶ月間、JICA 沖縄国際センターより委託を受け国別研修『メキシコ国ユカタン半島沿岸湿地保全計画(生態系保全コース)』が実施された。

今回の個別研修は日本各地の海、河川、湿地の保全について学び、マングローブの植林技術の習得や環境モニタリングについて基本的な知識を得ると同時に、「行政」「NGO」「住民」「民間企業」の協働の有り方とそれぞれの役割についての理解を深める事が目的。

現地プロジェクト担当主任のマルコ研修員は一連の研修を通して、湿地保全の大切さを再認識。国や地方自治体による支援の厚さ、監視体制、海の環境保全等、公民の協力がなければ自然保護はできない事や、沖縄県の自然公園地域の特長や管理方法に関しては、本国メキシコ政府でも導入を図っていきたいと感じたようだ。

マヤブシキあれこれ(3)

現地調査に行ってきました(小浜島の様子)

(前号からの続き)

OECでは地球環境基金の助成を受け、水辺植生と希少種の保護回復をおこなっている。マングローブの一種であるマヤブシキは、沖縄県版レッドデータブックでは希急種にランクづけられ、自然の分布では、気温条件などにより八重山諸島が北限とされている。2004年12月29日与那国島のオヒルギ、ミモチシダ、その他水辺の植生調査と採種を終えた後、翌30日には、小浜島のマヤブシキについて調査をおこなった。

12月の柔らかい日差しの中、買物に行く時のような普通の自転車を借りて、島の西側(西表島側)の石長田地区を目指すことにした。牛の放牧地や集落を抜け、水牛や水鳥の姿をのんびりと眺めながら30分ほど自転車をこぐと、そこには約5.6haのマングローブがひろがっていた。海から陸につながる自然植生は、人工的なコンクリート防波堤によって分断されていたが、海側にはまとまったマングローブ林がひろがっていた。マングローブ林全体をよく観察すると自然に生育しているものと、ヒトの手によって植樹をしたようなあとの人工的な配列が見られた。



主な構成種はヤエヤマヒルギ、オヒルギ、ヒルギダマシ。樹高約5mのオヒルギでは、赤い帽子(ガク)に白い花や散布体(胎生種子)をつけている様子を観察することができた。多くの胎生種子では、虫に食べられている痕跡が見られ、タンニンの多い胎生種子はヒトにとって渋味でも、虫にとってはよい食料、そして産卵の場となっているのだろうか。

自生のマヤブシキは、老木が6-7本、若いと考えられる木が3-4本確認、いずれも樹高が5-6m位であった。その中でザク口状の果実を一つ付けている株を発見。まだ成熟していない様子だったので採取はおこなわなかったが、初めてみる緑色の果実は、頭の毛を一本生やしたようなかわいらしい姿をしていた。地面を見渡すとたくさんのキバウミニナ(約12cm)やトビハゼが見られ、シレナシジミ(約10cmの二枚貝)も発見できた。泥に含まれる有機物の味をお腹いっぱい楽しんでいるのだろう。マングローブの根や幹には、マドモチウミニナ(約2.5cm)がくっついているのも観察できた。



成木の周りでは、今年のマヤブシキの果実が落下した様子や、昨年の子が発芽して生育している幼木は確認することができなかった。北限域にあたるこの地域で、自然に定着するのは非常に難しいようだが、数少ないながらもこの場所に成木があるのは、生育できるだけの要因があったのであろう。マヤブシキそのものの生態的な条件を明らかにしながら、生育地の環境変化をとらえることは、今後の保全活動に必要なことであろうと、アイスクリームを食べながらぼんやり考えていた。

OEC事務局 研究員 吉田透(続く)

沖縄エコツアーガイド Voice

私がエコツアーガイドの活動をするようになったのはちょっとした出来事が始まりだった。その出来事とは JICA の研修員達の美ら海水族館への引率だった。それがきっかけでエコツアーの勉強もするようになり JICA の研修員達に世界遺産のスポットも案内するようになった。もともと、環境に対する関心はあったので、それプラスいろんな勉強、例えば文化や植物、生物、歴史的な事等幅広くいろんな視点から勉強できて非常によかった。



そういうのを勉強した上で JICA の研修生達と接し、そして案内する内にいろんな質問を受けてさらに勉強する必要がでてきて自分の視点が広がるようでも楽しい。そして、外国の気候、風土、植物、生物の話を知ると沖縄の地理気候風土を再認識させられる。その上、英語も使うことでさらに勉強する意欲も出てきて刺激的でとても楽しんでいる。今後は歴史や自然の知識を深め英語力も高め、より広く深くガイドできたらと願っている。

(沖縄エコツアーガイド：屋宜マサ子)

沖縄の薬草

沖縄は亜熱帯の太陽が降り注ぐ下に約 150 種以上の薬用植物が存在するといわれている、まさに「薬草の宝庫」。今回はその一つ「くみすくちん」を紹介しよう。

方言名 クミスクチン（別名：ネコノヒゲ）

特徴 クミスクチンはマレー語で「猫のヒゲ」を意味し、薬用に栽培されている多年草。一般的に「熱を冷まし、湿気を取り、石を除いて利尿作用を高める」薬効を持つといわれ、なかでも豊富に含まれるカリウムが血液や体液の水分貯蔵量を引き下げ、利尿作用を促進し血圧を低下させると言われている。



ボランティア募集！

おきなわ環境クラブで貴方の特技を活かしてみませんか？皆様の特技を待っています。

興味のある方は下記連絡先まで早速アクセス！

(メールでも受付しています)

(現在行っている活動)

那覇市内(漫湖)などでの水辺緑化

希少種の保全・回復、エコツーリズム・・・その他。

今後の予定

11月12日、国際交流環境ワークショップを開催。

11月26,27日沖縄県環境フェア出展、参加。

沖縄県文化環境部委託事業『生活排水対策普及啓発モデル事業』スタート。

12月初旬、地域環境センター主催イベント『県庁内自然観察会』を開催。

NPO 法人 おきなわ環境クラブ(OEC)

〒902-0075 那覇市国場 370 番地 107 号室

TEL: 098-833-9493 FAX: 098-833-9473

E-mail: oec@mc3.seikyou.ne.jp

URL: <http://www.npo-oec.com>

* コープ国場の裏です。遊びに来て下さい。 *

OEC 宮古支局

〒906-0301 下地町字川満 1026

TEL・FAX 0980-76-2696

E-mail: oec-m1@miyako-ma.jp